

[三菱マテリアルグループについて]

特集



当社は、三菱マテリアルグループのDXを「MMDX」と名付け、グローバルな競争に打ち勝つDX戦略を展開しています。2020年度はまず、デジタル技術とデータの活用による「顧客接点強化」「プロセス連携の強化」「経営スピードアップ」の実現を目指し、21の実行テーマと、2020年度から2025年度まで6か年の具体的なロードマップを策定しました。2021年度はいよいよ実行フェーズに入っていきます。



▼関連記事:

統合報告書「デジタル化戦略」 P58

■MMDX全体のマスタースケジュール

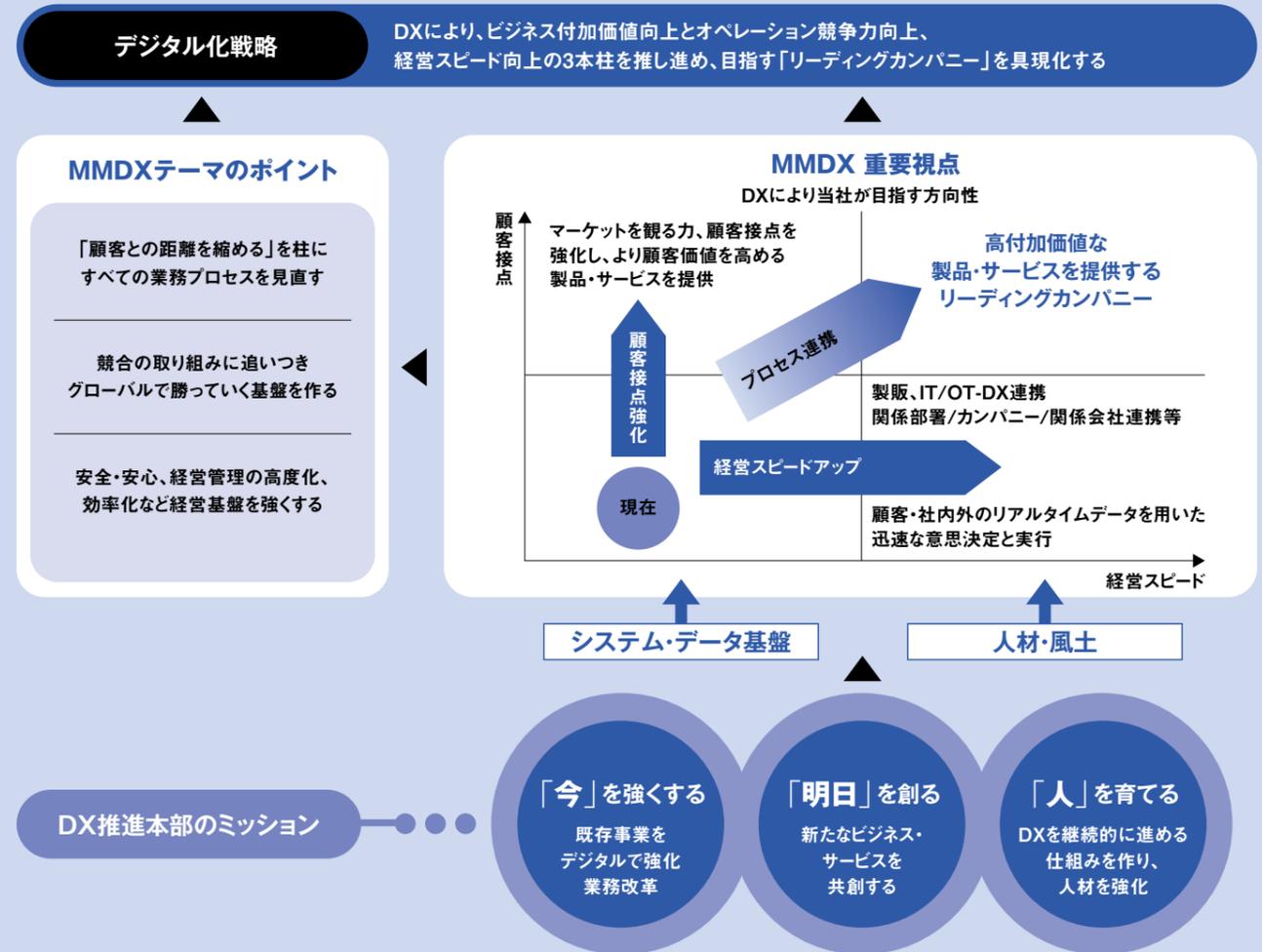


グローバルで勝ち抜くため基盤づくりとしてDX戦略に取り組み、優先的に取り組むべき21のテーマを選定、スピーディーに遂行していきます。

当社は、中期経営戦略(22中経)の重要要素としてデジタル化戦略を策定し、グローバルで勝ち抜くため基盤づくりとしてDX戦略に取り組んでいます。2020年4月にDX推進本部を発足、DXの重要視点である「顧客接点強化」「プロセス連携の強化」「経営スピードアップ」、そしてこれらの基盤となる「システム・データ基盤」と「人材・風土」に照らして、優先的に取り組むべき21のテーマを選定。これらをスピーディーに遂行することで、社会の変化、環境の変化、そして自らの変革に対応するリ

アルタイム経営を目指していきます。当社は、この取り組みを三菱マテリアルグループのDX「MMDX」と名付け、2020年度から2025年度まで6か年の具体的なロードマップと実行施策を定義し、投資計画、実行リソース計画を推進しています。投資規模は最新の見直しにより、6か年で400億円超を予定し、マスタースケジュールとしては当初3か年を実行初期段階と位置付け、2023年度から本格稼働のフェーズに入る計画です。

「三菱マテリアルの目指す姿」実現



[三菱マテリアルグループについて]



DX推進本部は「今の事業をデジタルで強化する」「新たなビジネスを事業と共創する」「5年10年継続的に進める活動とするための仕組みとDXを実行する人材を強化する」の3つをミッションとし、以下の3点を重視した活動を進めています。第一に「目的、目指す姿の明確化」です。自社の現状や課題、環境変化、競合等を深く理解したうえで取り組みます。第二に「リーダーの本気、オーナーシップ、コミットメント」です。経営者だけでなく、実務リーダーがDXへの深い理解を持ち、経営改革としてオーナーシップを取ることが不可欠です。そして最後に「人の力、現場力の向上」です。当社人材の専門性や勤勉さ、やると決めたらやり抜く現場の力を、更に高められるような人材育成や風土改革の取り組みを進めていきます。

■ 経営改革としてのDX、成功の3つのポイント

- 1 目的、目指す姿の明確化
- 2 リーダーの本気、オーナーシップ、コミットメント
- 3 人の力、現場力の向上

亀山 満
最高デジタル責任者(Chief Digital Officer, CDO)

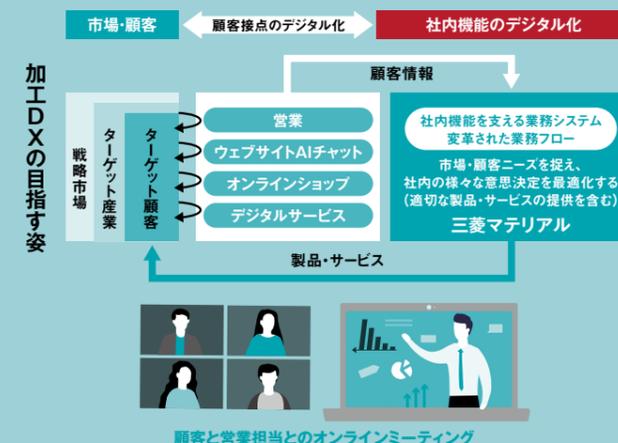


事業 [事業DX]

Case 1 加工事業カンパニーにおける顧客接点のデジタル化

加工事業カンパニーのDX戦略(加工DX)では、顧客接点のデジタル化を進めています。デジタル上の顧客接点としては、ウェブサイト、SNS、オンラインチャット等、さまざまなものがある中、加工DXは、お客様の課題解決に貢献できる製品やサービスについて、より分かりやすく伝える新しいウェブサイトの構築や、AIチャットボット活用による商談の展開に取り組んでいます。また、お客様情報を一元管理することで、ウェブサイトの検索履歴や相談履歴等、営業担当や上司、エンジニア等の社内情報の共有を可能にします。これにより、これまでバラバラに取り扱われてきた情報を関連付けて整理し、お客様の望む製品傾向や販売タイミング等の判断材料に活用することで、顧客満足度の向上を目指しています。加えて、技術ノウハウや実験データを蓄積し、人の技量に依存することのない技術提案を可能にする仕組みの構築にも取り組んでいます。このように、加工DXの取り組みは、単なるデジタル化による顧客接点の構築のみならず、活用フローを日常業務に組み込むことで事業の業務変革も担っています。現在、加工DXは構想段階から実装段階へ移行しつつあります。当初策定し

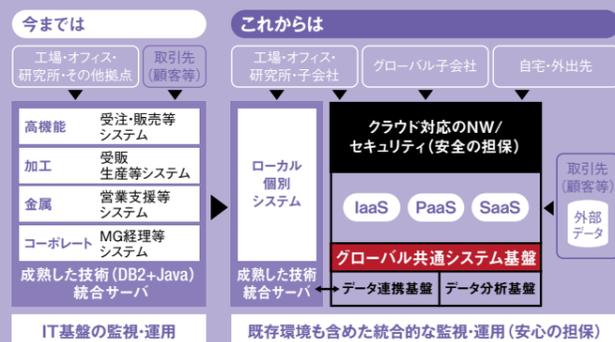
た提供価値に向けた方向性を維持しながら、更に限られたリソースで効率的な実装を進めるとともに、「業務を変える」「考え方を変える」「働き方を変える」トランスフォーメーションを実現していきます。



システム・データ基盤 [DX推進のための基盤整備]

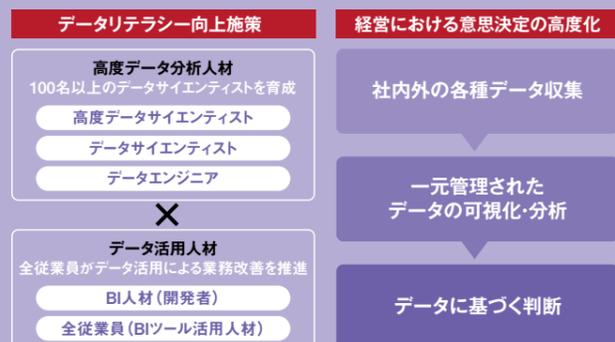
Case 1 システム基盤整備

従来の効率化の取り組みに加え、クラウドリソースを活用し拡張性・柔軟性を持って「必要なものを必要な時に」提供することや、プログラミングによらないシステム開発、増加する多様なシステム間のデータ連携強化等により生産性向上を図ることが重要となります。システム部門が蓄積してきた技術力、ノウハウを最大限活かし、事業へ迅速に貢献できるグローバル共通システム基盤の構築を目指しています。



Case 2 データ基盤整備

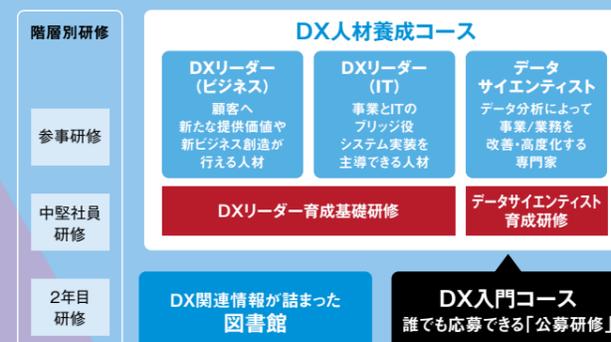
社内外からデータを収集・蓄積・共有し、データに基づいて業務・判断が行われる「データ駆動型経営」の実現を目指しています。①クラウド上のデータ基盤構築やデータ利活用に向けた全社標準としてのビジネスインテリジェンス(BI)ツール整備、②データサイエンティスト・データエンジニア等の人材育成・採用、③成果に繋がるデータ利活用の基本理念の定着化を実施し、ビジネス付加価値の創出、経営判断のスピードアップ、高度化により「データ駆動型経営」の実現を目指します。



人材・風土 [DX推進を支える人材育成と風土醸成]

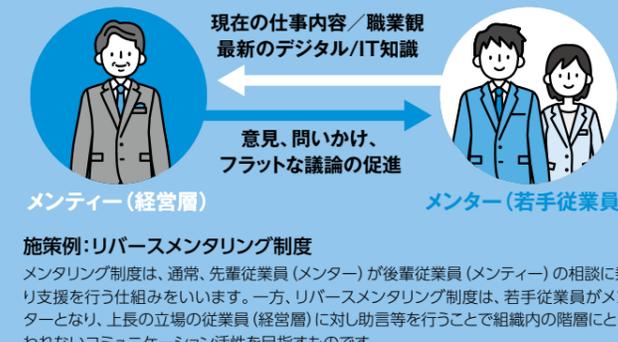
Case 1 人材育成

DX推進には、ビジネスとITの連携が不可欠です。データサイエンティストのように、高度なIT専門知識を持つ人材の育成とともに、「デジタルを使う人材」として全従業員がDXリテラシーを身につけていくことが必要です。現在、社内イントラネット上にオープンしている「DXカレッジ」では、MMDXを主導するDX人材の育成、DXリテラシー向上、DXコミュニティの形成を目的として、ツール活用講座をはじめ専門的な選抜教育等のコンテンツを拡充しています。



Case 2 風土醸成

DXでは、事業・経営基盤強化のテーマに沿った具体的なデジタル推進の取り組みとともに、グループ従業員のDXマインド・リテラシー向上についても推進しています。DX推進本部では、多様な人材による組織のヒエラルキーにとられない議論ができる風土が形成されており、これまでにないコミュニケーションの機会を広めることで、デジタル化だけでなく、仕事の進め方全体にも良い影響を与える、組織風土改革への継続した取り組みとしていく考えです。



施策例:リパースメンタリング制度
メンタリング制度は、通常、先輩従業員(メンター)が後輩従業員(メンティ)の相談に乗り支援を行う仕組みをいいます。一方、リパースメンタリング制度は、若手従業員がメンターとなり、上長の立場の従業員(経営層)に対し助言等を行うことで組織内の階層にとられないコミュニケーション活性を目指すものです。

[三菱マテリアルグループについて]

企業理念体系

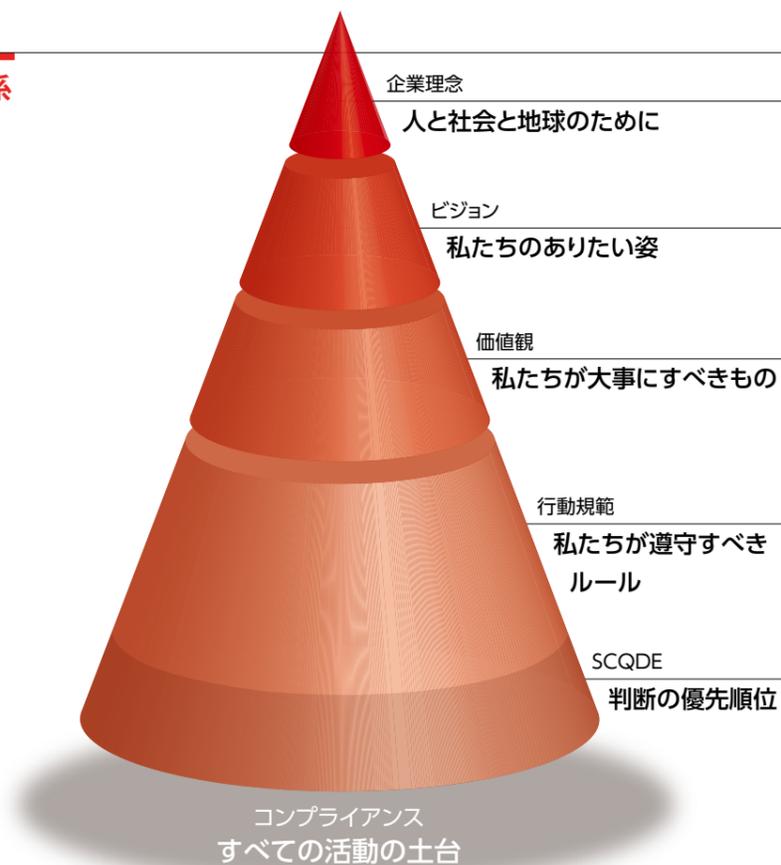
企業理念体系に基づく企業活動の全体像

三菱マテリアルグループの企業理念は「人と社会と地球のために」です。
私たちはこの企業理念の実現に向け、経営資源を活かしながら
事業活動を進め、社会の持続的な発展に寄与していきます。

三菱マテリアルグループの企業理念体系

私たちの企業理念体系は、「企業理念」を一番上にして「ビジョン」「価値観」「行動規範」で成り立っています。「SCQDE」は、業務遂行における判断の優先順位です。そして「コンプライアンス」は、すべての活動の土台となるものです。

私たち一人ひとりは、この内容をよりどころに、それぞれの役割において、日々誠実に業務を実践します。それによって、より良い、明日の三菱マテリアルグループを創りだし、人と社会と地球のために貢献していくことを固く誓います。



①	S	Safety & Health 安全・健康最優先
②	C	Compliance & Environment 法令遵守、公正な活動、環境保全
③	Q	Quality 「顧客」に提供する製品・サービス等の品質 品質問題の反省に立ち、利益よりも SCQ 遵守の徹底を優先
④	D	Delivery 納期厳守 Dまで満たして、はじめて「顧客」の信頼が得られる
⑤	E	Earnings 適正利益 SCQDEを満たした上で、「顧客」の信頼に基づき得られたもの

グループガバナンス強化への取り組みのひとつとして「SCQDE」を2018年度に制定しました。「安全・健康(S)、コンプライアンス・環境保全(C)、品質(Q)、納期(D)、利益(E)」を表しています。いずれも重要な要素ですが、業務を行ううえでの判断の優先順位を示したもので、行動規範を補足する指針として位置付けています。

私たちが『顧客』に製品・サービス等を提供するにあたっては、SCQを徹底した上で、Dを満たさなければなりません。それらを誠実に実行し続けることが『顧客』や社会からの信頼に繋がり、これによって産み出されたものが、適正な利益であると考えます。

※ここでいう『顧客』とは、当社グループ外の顧客だけでなく、各従業員にとっての業務(製品・サービスを含む)の提供先を指します。なお、業務には、グループ会社間取引、コーポレート部門から事業部門への支援等を含みます。

※「SCQDE」の読み方は「エス・シー・キュー・ディー・イー」を推奨する。

[三菱マテリアルグループについて]

サステナブル経営推進本部について

サステナビリティに関わる全社の経営課題への対応を一元的に推進することを目的として「サステナブル経営推進本部」を設置しています。

設立の目的

当社グループが中長期的な企業価値の向上を実現するためには、サステナビリティに関連する経営課題への対応が必要不可欠な状況にあることから、当社は2020年4月1日付で対応を一元的に推進するため「サステナブル経営推進本部」を設置しました。当本部が率先する活

動を通じて、当社グループは、サステナビリティに関連する課題の解決に積極的に取り組み、更にはリスクマネジメントの観点から課題に適切に対応することで、持続可能な社会構築への貢献と中長期的な企業価値の向上の両立を目指しています。

組織のミッションと概要

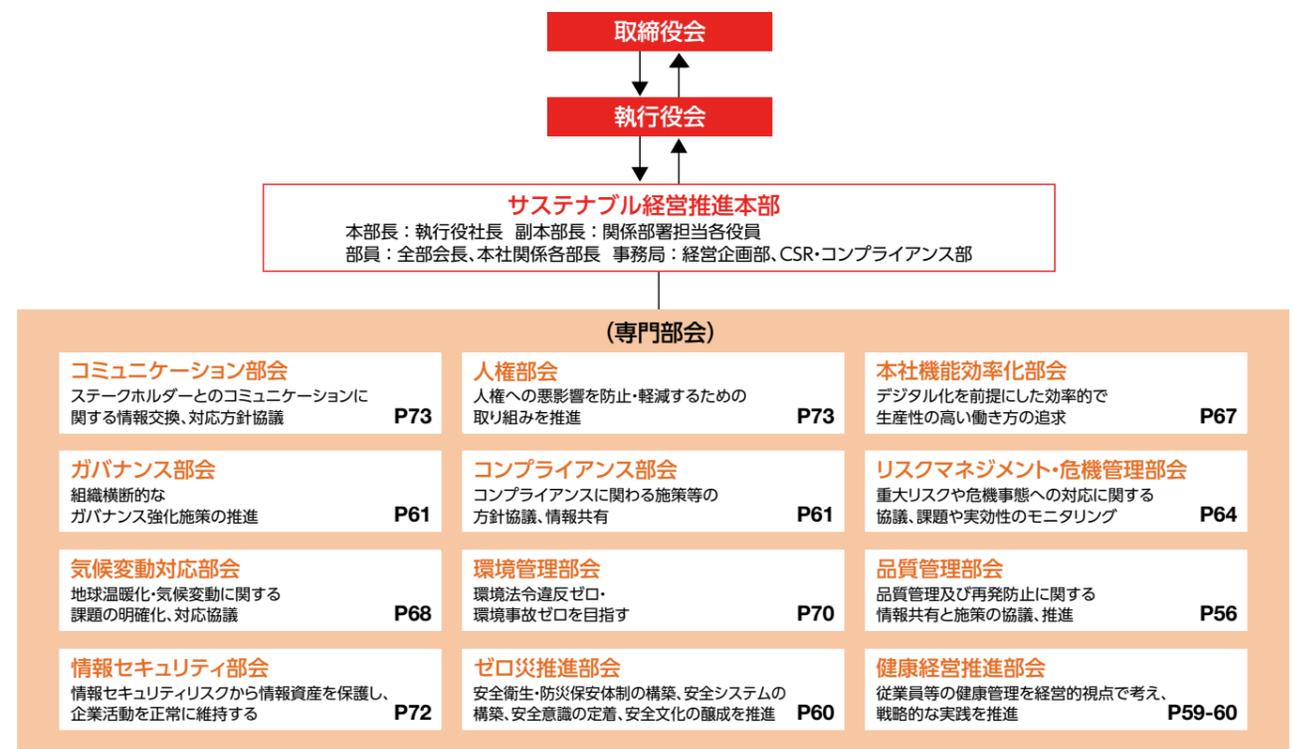
当本部は、当社グループが企業理念に則った事業活動を通じて、持続可能な社会構築へ貢献し、かつ中長期的な企業価値の向上を実現するため、各種経営課題に対する一元的な対応を推進することをミッションとしています。

執行役社長を本部長とする全社横断的な組織によって構成され、本部内の組織体制として課題テーマごとに専門部会を設置し、それぞれの部会において関連する課題を特定したうえで、対応策を立案し、施策実行及びフォ

ローアップ等を行っています。今後、当社が対応すべき課題が社会的要因等により変化した場合には、対象とする課題やそれに対応する部会構成も柔軟に対処していく考えです。

また、上記対応の一元管理化により、当社をとりまくステークホルダーの声を集約して経営課題に反映させるとともに、当社の活動を適切に開示・説明し、対話を深めることができるような体制を構築しています。

■ サステナブル経営推進体制(2021年7月1日現在)



[三菱マテリアルグループについて] グローバルアトラス

地域別売上高構成比、法人数、従業員数(連結)

(■ 主な事業所 ● 主なグループ会社)

2021年3月現在

Europe 欧州

法人数: 18
従業員数: 1,175

高機能製品

- ルパタ社(フィンランド)
- ルパタ ポリ社(フィンランド)
- ルパタ ウォルバーハンプトン社(イギリス)
- ルパタ ウェルウィンガーデン社(イギリス)

加工

- MMCハルトメタル社(ドイツ)
- スペイン三菱マテリアル社(スペイン)
- MMCハードメタルロシア社(ロシア)
- MMCハードメタルポーランド社(ポーランド)

金属

- MMメタルリサイクリング社(オランダ)

East Asia 東アジア

法人数: 14
従業員数: 771

- 三菱総合材料管理(上海)有限公司(中国)

高機能製品

- 青島愛科銅業有限公司(中国)
- ルパタ スーパーコンダクター ツォンシャン社(中国)
- MMメタルプロダクツ スージョウ社(中国)
- 菱慶材料(上海)貿易有限公司(中国)
- MMCエレクトロニクス韓国社(韓国)

加工

- 天津三菱超硬工具有限公司(中国)

Southeast Asia 東南アジア

法人数: 20
従業員数: 4,972

- 三菱マテリアルSEA社(タイ)

高機能製品

- MMCエレクトロニクスタイランド社(タイ)
- リョウシンドウマニファクチャリング社(マレーシア)
- ルパタ マレーシア社(マレーシア)
- ゴトーフィリピン社(フィリピン)
- MMCエレクトロニクスマレーシア社(マレーシア)
- MMCエレクトロニクスラオス社(ラオス)

加工

- MMCツールズタイランド社(タイ)
- MMCハードメタルインド社(インド)

金属

- インドネシア・カパー・スメルティング社(インドネシア)

アルミ

- エムエーエクストリュージョンインディア社(インド)

Oceania オセアニア

法人数: 1
従業員数: 11

セメント

- 豪州三菱マテリアル社(オーストラリア)

Japan 日本

法人数: 62
従業員数: 16,414

- 本社(東京都)
- 札幌支店(北海道)
- 東北支店(宮城県)
- 名古屋支店(愛知県)
- 大阪支店(大阪府)
- 九州支店(福岡県)
- さいたま総合事務所(埼玉県)
- スマートファクトリー推進センター(埼玉県)
- 生産技術センター(埼玉県)
- 中央研究所(茨城県)
- (株)マテリアルファイナンス(東京都)
- (株)マテリアルビジネスサポート(埼玉県)

高機能製品

- 若松製作所(福島県)
- セラミック工場(埼玉県)
- 四日市工場(三重県)
- 堺工場(大阪府)
- 三宝製作所(大阪府)
- 三田工場(兵庫県)
- 三菱マテリアル電子化成(株)(秋田県)
- 三菱電線工業(株)(東京都)

加工

- 筑波製作所(茨城県)
- 岐阜製作所(岐阜県)
- 明石製作所(兵庫県)
- (株)MOLDINO(東京都)
- 日本新金属(株)(大阪府)

金属

- 秋田製錬所(秋田県)
- 生野事業所(兵庫県)
- 直島製錬所(香川県)
- 細倉金属鉱業(株)(宮城県)
- 小名浜製錬(株)(東京都)
- マテリアルエコリファイン(株)(東京都)

セメント

- 青森工場(青森県)
- 岩手工場(岩手県)
- 横瀬工場(埼玉県)
- 東谷鉱山(福岡県)
- 九州工場(福岡県)
- 菱光石灰工業(株)(東京都)

環境・エネルギー

- エネルギー事業センター(埼玉県)
- 秋田発電(株)(秋田県)
- 八幡平地熱(株)(秋田県)
- (2021年4月1日付で秋田発電(株)と合併し、八幡平グリーンエナジー(株)に社名変更)
- 東日本リサイクルシステムズ(株)(宮城県)
- ニューエナジーふじみ野(株)(埼玉県)
- 北九州アッシュリサイクルシステムズ(株)(福岡県)

アルミ

- ユニバーサル製缶(株)(東京都)
- 三菱アルミニウム(株)(静岡県)

関連

- 三菱マテリアルトレーディング(株)(東京都)
- 三菱マテリアルテクノ(株)(東京都)

North America 北米

法人数: 24
従業員数: 3,784

高機能製品

- 米国三菱ポリシリコン社(米国)
- ルパタ オハイオ社(米国)
- ルパタ ウォーターベリー社(米国)
- ルパタ アップルトン社(米国)
- アクイレイト ワイヤー社(米国)

加工

- 米国三菱マテリアル社(米国)

セメント

- 米国三菱セメント社(米国)
- MCCデベロップメント社(米国)
- ロバートソン・レディ・ミックス社(米国)

アルミ

- サーマレックス社(米国)

South America 南米

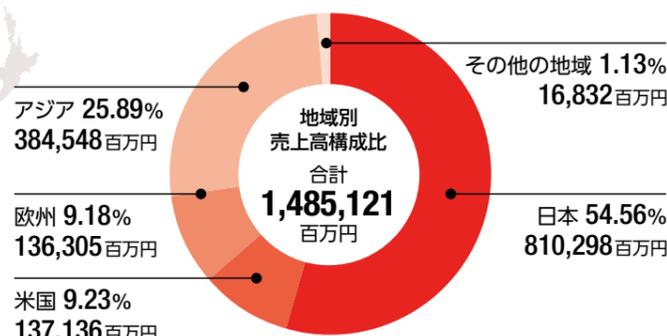
法人数: 2
従業員数: 35

高機能製品

- ルパタ サンパウロ社(ブラジル)

金属

- 三菱マテリアルチリ社(チリ)



海外進出先国・地域数 **30**

従業員数(連結) **27,162**名

[三菱マテリアルグループについて]

三菱マテリアルのDNA

いままでも、これからも。三菱マテリアルは、新しい時代の要請にチャレンジ。
“成長への変革”を遂げていきます。

当社は、三菱グループのルーツである九十九商会の鉱山業への進出を起源としています。
150年にわたり、日本の高度成長を支え、時代とともに変化する社会の要請に応じて、
経営の多角化・事業構造の転換を続けながら発展してきました。
私たちは、これからも、新たな素材、製品、ソリューションを創造し、持続的な成長を果たしていきます。

150年の歴史で培われた
三菱マテリアルグループの
「4つの強み」

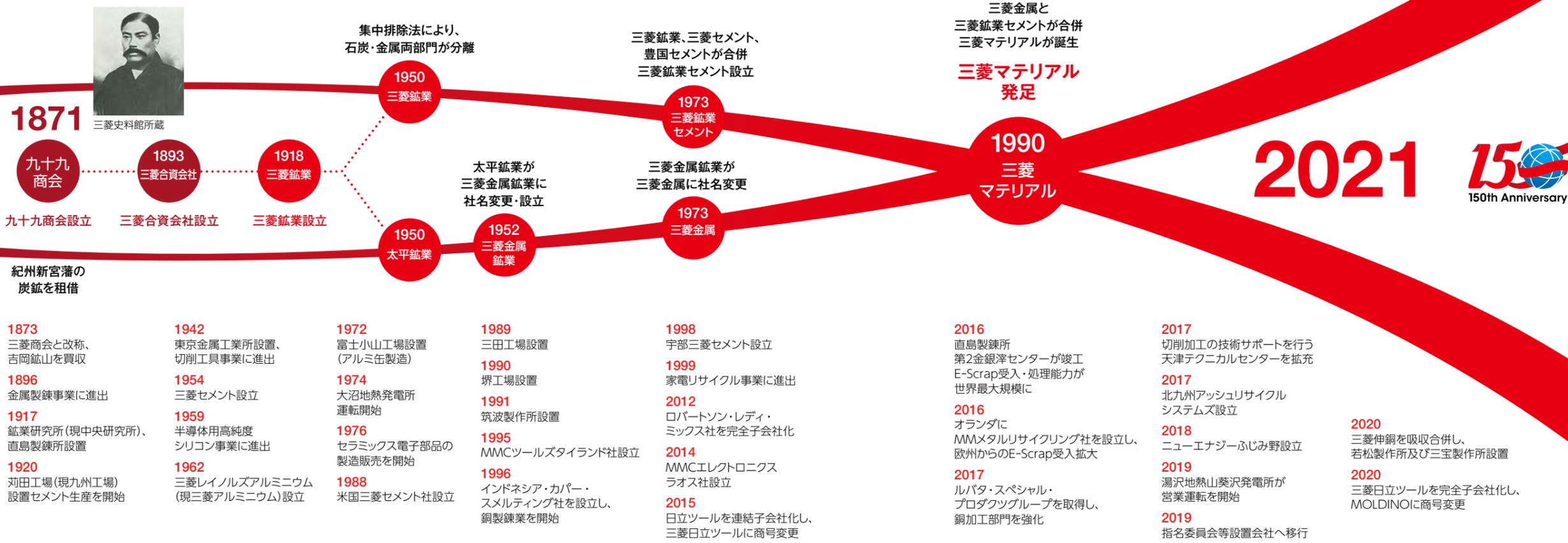
日本の近代化とともに

石炭、金属部門の進展

戦後の復興から多角化する事業

三菱マテリアルの誕生とさらなる発展

さらなるグローバル化



- 1873** 三菱商会と改称、吉岡鉱山を買収
- 1896** 金属製錬事業に進出
- 1917** 鉱業研究所（現中央研究所）、直島製錬所設置
- 1920** 刈田工場（現九州工場）設置セメント生産を開始
- 1942** 東京金属工業所設置、切削工具事業に進出
- 1954** 三菱セメント設立
- 1959** 半導体用高純度シリコン事業に進出
- 1962** 三菱レインノズアルミニウム（現三菱アルミニウム）設立
- 1972** 富士小山工場設置（アルミ缶製造）
- 1974** 大沼地熱発電所運転開始
- 1976** セラミックス電子部品の製造販売を開始
- 1988** 米国三菱セメント社設立

- 1989** 三田工場設置
- 1990** 堺工場設置
- 1991** 筑波製作所設置
- 1995** MMCツールズタイランド社設立
- 1996** インドネシア・カパー・スメルティング社を設立し、銅製錬業を開始
- 1998** 宇部三菱セメント設立
- 1999** 家電リサイクル事業に進出
- 2012** ロバートソン・レディ・ミックス社を完全子会社化
- 2014** MMCエレクトロニクスラオス社設立
- 2015** 日立ツールを連結子会社化し、三菱日立ツールに商号変更

- 2016** 直島製錬所第2金銀滓センターが竣工 E-Scrap受入・処理能力が世界最大規模に
- 2016** オランダにMMタルリサイクリング社を設立し、欧州からのE-Scrap受入拡大
- 2017** ルパタ・スペシャル・プロダクツグループを取得し、銅加工部門を強化

- 2017** 切削加工の技術サポートを行う天津テクニカルセンターを拡充
- 2017** 北九州アッシュリサイクルシステムズ設立
- 2018** ニューエナジーふじみ野設立
- 2019** 湯沢地熱山葵発電所が営業運転を開始
- 2019** 指名委員会等設置会社へ移行
- 2020** 三菱伸銅を吸収合併し、若松製作所及び三宝製作所設置
- 2020** 三菱日立ツールを完全子会社化し、MOLDINOに商号変更

1 高度なリサイクル技術と事業基盤

2 原料から製品までの価値連鎖と安定供給能力

3 独自の素材開発・製造技術力

4 課題解決に向け結束できるチーム



[三菱マテリアルグループについて]

三菱マテリアルグループの強み

三菱マテリアルは、150年にわたって培ってきた強みを基礎に、世界各地の産業を支えます。

1 高度なリサイクル技術と事業基盤

廃基板 (E-Scrap) リサイクル処理量
世界No.1

家電リサイクル処理量
国内No.1

切削工具のリサイクル率
42% (2020年度実績)

三菱マテリアルグループは、銅をはじめとする非鉄金属及びセメントの生産工程に、リサイクル機能を組み込み、長年にわたりその改善と拡充を重ねてきました。その最大の成果が、非鉄製錬所とセメント工場を連携させた「製錬・セメント資源化システム」であり、社会で発生する多種多様な廃棄物・副産物を再び価値のある資源として活用することを可能としています。これは、都市鉱山と呼ばれる電子機器等のスクラップや車載バッテリーから金、銀、鉛といった有価金属を回収し再利用する仕組みも提供しています。

家電リサイクルから製錬まで一貫した工程を備えていることで、さまざまな有価金属を効率的に回収・利用でき、この強みを活かして、拠点横断的なマテリアルフローの最適化 (マテリアルグリッドの構築) を継続的に進めています。

なお現在は、MMDXの活動を通して、より効率的なリサイクルシステムへの進化に取り組んでいます。

▼関連記事:

統合報告書「MMDX戦略」 P18

2 原料から製品までの価値連鎖と安定供給能力

投資先の海外銅鉱山プロジェクト
5件
(操業中3件、開発中2件)

三菱連続製銅法の輸出先
5カ国
(カナダ、韓国、インドネシア、オーストラリア、インド)

原料資源の安定調達から製品までの一貫した製造体制を確立し、良質な製品の安定した市場供給を可能にしています。

原料資源の確保には、調達先の多様化と戦略的な鉱山投資、そして廃棄物・副産物のリサイクルを組み合わせています。

当社グループの製造工程を象徴するのが、銅精鉱を高効率、低環境負荷で製錬できるプロセスとして当社で開発された「三菱連続製銅法」です。これは、リサイクル原料を処理するうえでも他製錬法にはない優れた特長を有しています。更に、鉛製錬、錫製錬、貴金属製錬、PGM (白金族) 製錬の工場も有し、当社グループ全体をひとつの製錬システムとするネットワークを構築しています。

この強みを基盤として、世の中に不可欠な基礎素材を供給するとともに、世界各地の産業を支えています。

3 独自の素材開発・製造技術力

伸銅品販売シェア
国内No.1

低アルファ線はんた®販売シェア
世界No.1

※半導体において、はんたから発生するアルファ線を起因とするソフトウェア (誤作動) を低減させる製品を指します。

社会のさまざまなニーズに応えるため、私たちならではのユニークな技術や製品の研究開発に取り組み、より優れた製品、システムやサービスを届けることは、当社グループの一貫した姿勢です。

当社の中央研究所は、1917年に当時国内では珍しい民間研究機関として、三菱合資会社により設立された「鉱業研究所」を祖とし、今日の製品群とその製造能力へと繋がる数多くの成果を生み出してきました。

変化の激しい市場に対応する無酸素銅及び銅合金 (銅加工) や異種材料接合 (電子材料) に加え、超硬原料、コーティング (加工) 等の先進技術は、いずれも原子レベルでの分析力・シミュレーション技術に支えられた素材開発・製造技術力で、当社グループの競争力の源泉となっています。

更に、コーポレート・ベンチャーキャピタルを設け、技術系スタートアップ企業との協業も加速しています。

4 課題解決に向け結束できるチーム

「自社に貢献したい」と考える従業員比率

76%
(2021年5月の従業員調査による、対象は当社およびグループ会社57社)

当社グループの企業理念やビジョンを実現するために大事にすべきものとして制定している「価値観」の一番目に「多様な個性の尊重とチームワーク」を掲げています。多様な個性を認め合い、切磋琢磨することで、チームを活性化しイノベーションを生み出すことに注力しています。

事業を展開する世界の多くの国々において、女性をはじめ、高齢者、障がい者も含めた多様な人材の活躍・活用を促す環境づくりを進めています。その多彩な個性と価値観、そして誠実さを尊重し、これらの個人の力を結束することで、あらゆる課題解決への取り組みを可能にしています。

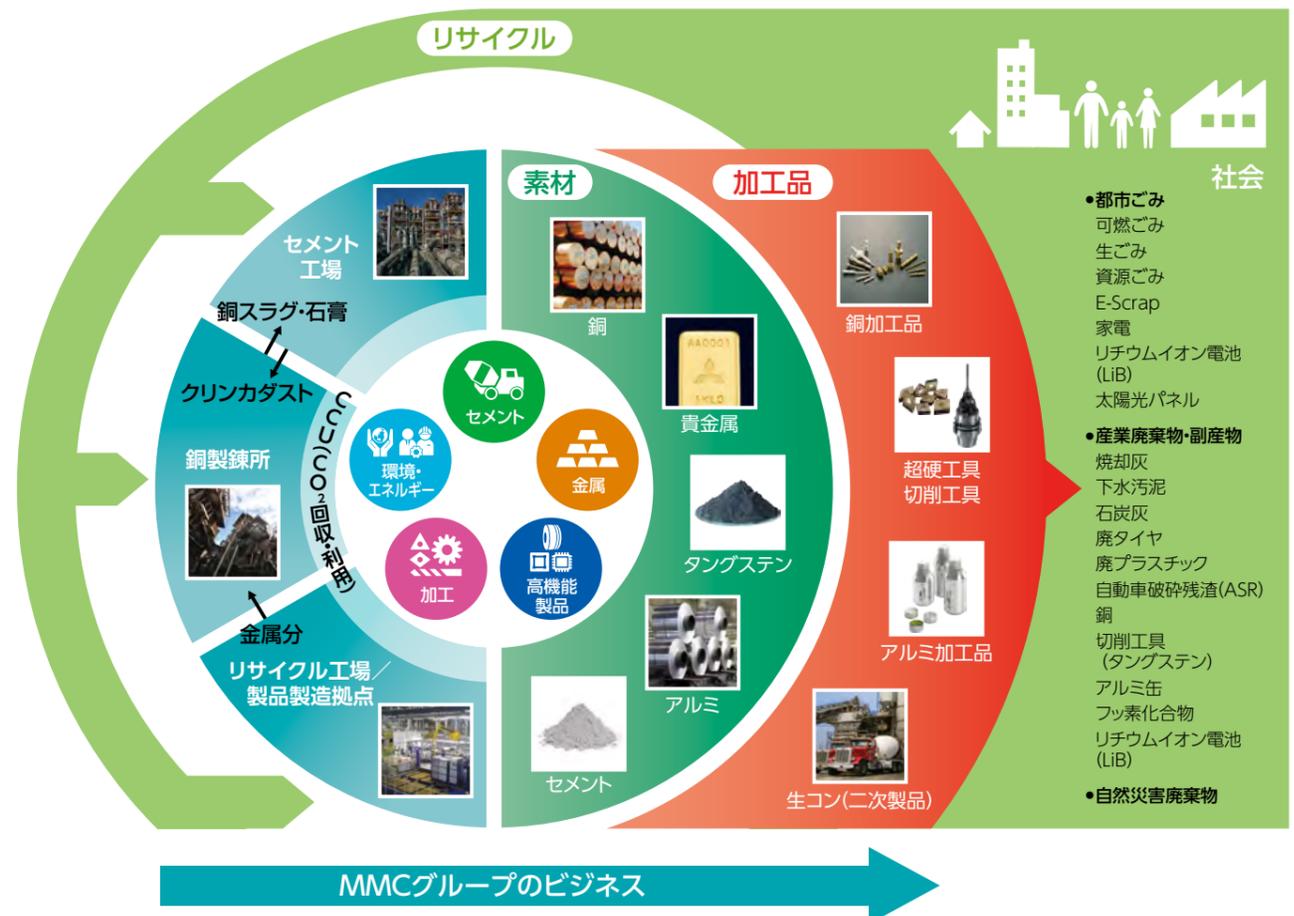
競争力の源泉となっている技術

- 高性能で環境負荷の小さい銅合金
- 銅・貴金属・アルミ加工
(多様なニーズへのきめ細かい対応)
- 機能材料
- 異種材料接合
- 金属加工のための超硬製品
- コーティング技術
- 三菱プロセス (三菱連続製銅法)
- E-Scrapから有価金属の回収
- 車載バッテリーの自動解体による鉛リサイクル
- セメントキルンでの有機廃棄物無害化
- 家電の高効率で安全な解体
- 地熱開発・発電

これからの競争力を支える技術

- デジタル技術 (MMDX)
- 材料・加工技術の進化
- 高機能粉末、微細粉末
- 銅精鉱中の不純物除去
- 有価金属マテリアルフローの最適化
- リサイクル技術の進化
(リチウムイオン電池、太陽光パネル、未利用有価金属回収、等)
- タングステンリサイクル技術
- セメントキルンの低温焼成
- バイオガスの活用
- CO₂排出の抑制と回収・資源化
- スマートファクトリー

■ 当社グループの循環型ビジネスモデル



- 社会
- 都市ごみ
可燃ごみ
生ごみ
資源ごみ
E-Scrap
家電
リチウムイオン電池 (LiB)
太陽光パネル
 - 産業廃棄物・副産物
焼却灰
下水汚泥
石炭灰
廃タイヤ
廃プラスチック
自動車破砕残渣 (ASR)
銅
切削工具 (タングステン)
アルミ缶
フッ素化合物
リチウムイオン電池 (LiB)
 - 自然災害廃棄物

MMCグループのビジネス

[三菱マテリアルグループについて]

重要課題の特定とその対応

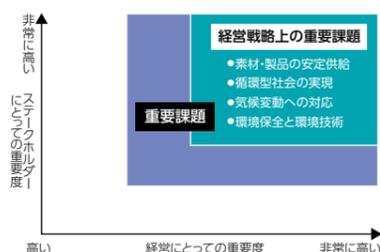
当社グループは、中期経営戦略(22中経)の策定にあたり、既存のCSR上の重要課題を基礎として経営上の重要課題を新たに設定し、社会的価値と経済的価値の両立による企業価値向上の枠組みとしています。

重要課題	重点テーマ
事業を通じた社会課題解決に関する重要課題	素材・製品の安定供給 [SCQDE] 銅を中心とした非鉄金属素材の提供 付加価値の高い機能材料・製品の提供
	循環型社会の実現 [SCQDE] リサイクル可能な製品の提供 高度なリサイクル技術による廃棄物の再資源化
	気候変動への対応 [SCQDE] 地熱等再生可能エネルギーの開発・利用促進 環境負荷低減を考慮したもののづくりの徹底
	環境保全・環境技術 [SCQDE] 環境汚染防止 生物多様性の保全 環境技術・製品の開発
経営基盤・基盤強化に関する重要課題	労働安全衛生 [SCQDE] 労働災害の未然防止 心身ともに働きやすい職場づくり
	ガバナンス [SCQDE] コンプライアンスの徹底
	多様な人材の育成と活用 人材育成 多様性(女性の活躍推進)
	バリューチェーンにおける責任 [SCQDE] 調達における人権尊重 製品品質
	ステークホルダーとの関係構築・強化 顧客満足の向上 地域社会との対話・共生
	ステークホルダーコミュニケーション 業務標準化 オペレーション強化 新たな付加価値創造
	デジタルトランスフォーメーション



選定・展開のプロセス

- ESG・サステナビリティ視点から洗い出した課題要素に対して、最新の社会動向の観点や当社グループの中長期的成長という視点から課題要素を一部見直し
- それらの要素に対し、会社の目指す姿に照らしながら、当社グループにとっての重要度及び主要なステークホルダーごとの重要度を評価
- 当社グループ及び主要なステークホルダーにとっての重要度が「非常に高い」事項を、経営戦略上の重要課題として「事業を通じた社会課題解決に関する重要課題」に設定。また、ほかの重要課題を「経営基盤・基盤強化に関する重要課題」に設定
- 重要課題に関連する目標を含む長期戦略や中期経営戦略を策定、実施



コーポレート戦略 ・研究開発・マーケティング戦略 ・ものづくり戦略 ・品質管理戦略 ・デジタル化戦略 ・人事・人材戦略	・労働安全衛生 ・コンプライアンス ・リスクマネジメント ・気候変動 ・環境マネジメント	・休廃止鉱山 ・情報セキュリティ ・ステークホルダーコミュニケーション
ガバナンス ・役員のご紹介 ・取締役会議長メッセージ ・指名・監査・報酬 各委員会委員長(社外取締役)からのメッセージ	・コーポレート・ガバナンス ・サステナブル経営推進本部について	